

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473400636
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館瀬谷
訪問調査日	平成20年12月3日
評価確定日	平成21年1月26日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 12月 15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1473400636号
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホームいっしん館 瀬谷
所在地	横浜市瀬谷区本郷3-49-1 (電話) 045-306-1635

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年12月3日	評価確定日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 3日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	17人	常勤 13人	非常勤 4人	常勤換算 6.4人

### (2) 建物概要

建物構造	( 木造 )造り
	2 階建ての ( 1 )階 ~ ( 2 )階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり		1,240 円	

### (4) 利用者の概要 (12月3日 現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	つくし野駅前クリニック、 湘南台デンタルクリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、木造2階建ての2ユニット型のグループホームで、相鉄線の瀬谷駅北口から徒歩約15分の田園風景が残る閑静な住宅地にあります。内部はバリアフリーで車椅子対応のエレベーターが設置され、リビングはゆったりとしており、また、1階には地域交流の場としても利用できる多目的ルーム、2階にはテラスが設置されています。トイレは各ユニットに3箇所設置され、車椅子対応のトイレには自動照明装置が付いており、また、洗面セットは上下可動式になっており利用者の利便に供しています。ホーム前の道路は近くの小学校の通学路になっており、毎日数百人の児童の登下校時に利用者が挨拶を行っています。地域や小学生との交流も盛んで、「こども110番」も引き受けており、小学校の入学式や卒業式にも招待され利用者による挨拶も行われています。館長を中心に明るくチームワークの取れた支援を実施しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題は、理念に「地域」というキーワードを入れた理念の策定、一人ひとりの食事・水分摂取量の把握、リビング・キッチン・トイレから居室にもれる音の軽減への配慮等の3点でした。については、地域と共に仲良く過ごすことが実践され、地域との良好な関係が根付いています。については、利用者一人ひとりの把握を再度検討されることが望まれます。については、一般家庭でもある通常の生活音であり、特に気になるような不快な音量ではないと推察されます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価に向けて、管理者はその意義や目的を職員に伝え、職員全員で分担して自己評価に取り組みました。自己評価をしたことにより、日々の支援の振り返りおよび今後の課題を見出すことが出来ました。評価が初めての職員もあり、評価の意義の理解と意識付けに役立つ機会となりました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年11月に区より説明があり、その後、区の方針により、地域合同で2回、単独で1回開催しました。ホームの活動状況や情報発信をし、委員の方からの助言や感想を聞くことが出来ました。当ホームに対するイメージを把握してもらえ、地域活動への参加・取り組みが歓迎されました。新たに民生委員と知り合える場ともなり、会議が活きたものとなっています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪時、ご意見箱(運営法人社長のみが開鍵付のもの)、運営推進会議への出席、ホーム相談窓口および外部苦情申し立て機関を明記・掲示して、要望や苦情を表せる機会を設けています。</p> <p>ケアプラン作成時には、家族の要望を聞いて意向に沿って速やかに対応しており、運営や日々のケアに反映させています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設して3年ですが、地域との良好な付き合いが根付いています。</p> <p>自治会や小学校の行事、地主さんによる蕎麦祭り等、多くの場に招かれ、利用者と共に地域の行事に参加しています。特に小学生とは、毎朝挨拶を交わすほか、毎月クラス単位(35名ほど)でホームへ訪れ、折り紙やあやとりを一緒にし、歌や楽器演奏の披露をしてもらっています。入学式や卒業式にも招かれ、利用者による挨拶の場も設けられました。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の基本理念を念頭に、当ホームとして、「毎日明るく元気に」「一笑懸命」と、笑いという字に想いを込めて、利用者が地域の中で明るく楽しく自分の家のように暮らしていく理念を掲げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に色付きで「一笑懸命」と掲示し、社内研修やスタッフミーティングをはじめ日々話題にあげながら、理念に則った支援に取り組んでいます。ここが家であるとし、職員の出退勤時や利用者の出入りの際も、「行ってきます」「ただいま」と声をかけ合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との良好な付き合いが根付いています。自治会、神社、地主さん、小学校等に招かれて利用者と共に地域の行事に参加し、また、来訪していただいています。特に小学生とは、日常的な交流があります。毎朝挨拶を交わり、毎月クラス単位(35名ほど)で折り紙やあやとり、歌などを披露してもらっています。入学式や卒業式にも招かれ、利用者による挨拶の場も設けられました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価に向けて、管理者はその意義や目的を職員に伝え、職員全員で分担して自己評価に取り組みました。自己評価をしたことにより、日々の支援の振り返りおよび今後の課題を見出すことが出来、サービスの質の確保・向上に活かすよう努めています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域合同で2回、単独で1回開催しています。ホームの活動状況や情報発信をし、委員の方からの助言や感想を聞くことが出来、会議が活きたものとなっています。当ホームに対するイメージを把握してもらえ、地域活動への参加・取り組みが歓迎されました。新たに民生委員と知り合える場ともなりました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の高齢福祉や生活保護等の各担当と連絡を取り合い、また、グループホーム連絡会に参加して交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時はもちろん、毎月「いっしん便り」と請求書を家族へ送り、各種報告をしています。「いっしん便り」は、利用者の写真が添えられ、行事での様子、受診記録、担当職員からの報告、翌月の予定がきちんと記入され、利用者の様子がよくうかがえるものとなっています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営法人の社長のみが開けられる鍵付きご意見、運営推進会議への出席、ホーム相談窓口、運営法人窓口および外部苦情申し立て機関を明記・掲示して、要望や苦情を表せる機会を設けています。ケアプラン作成時には、家族の要望を聞いて意向に沿って速やかに対応しており、運営や日々のケアに反映させています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑え安定した支援が出来るように、正社員としての雇用を主としています。場合によっては運営法人と連携して運営体制を変えて対応しています。異動があった場合には、利用者の様子をみながら言葉かけをし、チームケアで対応しています。散歩や行事等を1階と2階で一緒に行い、ホーム全体で日頃から顔馴染みになり、影響が少なくなるよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社、法人グループ内、定期的内部研修等、積極的な研修が行われています。各種研修や他ホームでの事例等の資料を回覧およびファイルし、職員全員が知識を得られるようになっていきます。研修費用・交通費・時間面も考慮され、研修を受ける機会が確保されています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や区ケアネットへの参加、区合同運営推進会議等にて同業者との交流が行われています。他グループホームとの交換研修、運営法人内施設間での会議や勉強会等、多くの場を設けてサービスの質の向上に役立っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、管理者をはじめ状況に対応出来る人材と共に、本人や家族と話し合う機会を設けています。ホームで行っている取り組み等を説明し、ホームへ遊びに来るよう誘い、本人が納得してサービス開始となるように話しを進めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意なものや性格を考慮しながらアプローチの方法をいろいろと工夫し、本人が自主的に力を発揮出来る場面の提供に努めています。日常的な家事をはじめ、花の植え方を教わったり、ぬかみそを作ってもらったりと、日々共に過ごしています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>適宜実施するアセスメントから本人の不安や悲しみ、うれしいことや楽しいことを把握するとともに、職員の毎日の「気付きメモ」や利用者との日々の会話、ふれ合いの中で本人本位に対応しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書の作成に当たっては、アセスメントを実施し、利用者、家族の希望を取り入れ、管理者、計画作成担当者、介護職員、ケアマネージャーが参加するサービス担当者会議にて協議し、作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、見直しの都度アセスメントを実施し、基本的には6ヶ月に1度実施しています。状況の変化があった時にはその都度見直しを実施しています。サービス担当者会議をおおよそ3ヶ月ごとに開催し、検討を行っています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、24時間利用者が継続して安心した生活ができる体制がとられています。また、重度化・看取りにも対応する体制もとられています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ホームの協力医とすることで、利用者、家族の理解が得られています。月2回の内科往診と週1回の歯科往診が実施されています。必要に応じ専門医への通院も行っています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療連携体制加算」のもと、重度化・看取りについては、入居時に利用者や家族、代理人等と話し合い、意向を確認しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の尊厳を大事にした言葉づかいや対応を心がけています。記録等の個人情報は事務所内の鍵付き書庫に保管し、廃棄書類はシュレッダー処理をしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の決まった生活スケジュールはなく、1日の流れの中で一人ひとりのペース、生活パターン、希望に合わせた支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物や旬の食べ物等の献立づくりからエプロンをしての調理や盛り付け、片付けに至るまで、利用者と職員が一緒になって行っています。食材の買い物へも一緒に行って選んでもらっています。職員も一緒に楽しく食事をとり、さり気ない支援を行っています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間帯で決めておらず、いつでも入れる状態にあり、一人ひとりの希望やタイミングで入浴を行っています。入浴を拒否される方には声掛けの仕方等を工夫して誘導しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や掃除、園芸等それぞれが出来る範囲で役割を持ち、参加していると共に本人の経歴、趣味を活かした役割をしてもらっています。また、レクリエーションや季節行事、外出の機会をつくり、楽しみ、気晴らしの支援を行っています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴雨に拘わらず、散歩の希望がある場合は、本人の希望に沿うように散歩をすると共に、日常的に外食、外出、ドライブ等を行っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人の方針が「鍵の掛けないケア」の実践であり、夜間以外は施錠していません。日中はセンサーで出入りを確認しています。利用者が一人で出て行ってしまった時はそれとなく後を追い、見守り対応をしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を実施し、地域防災訓練にも参加しています。消防用設備等の点検も実施され、消火器を設置し避難通路を確保しています。防火安全対策研修会に参加し、内容については職員との共有もなされ、非常災害マニュアルも整備されています。		災害に備えた食料や飲料水、防災用品等を2ユニット分準備されることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に栄養や水分に注意が必要な利用者には支援しています。		利用者毎に毎回の食事摂取量、水分摂取量を記録・把握し、状態に応じた支援を行うことが期待されます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広くゆったりとしており、テレビのそばにはソファークッションが置かれ、6畳の畳室、神棚も設置されており利用者は思いおもいに過ごしています。リビング壁面には生活感や季節感あふれる利用者の作品や行事の写真等が掲示され楽しい雰囲気があります。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物や、タンス、仏壇等が持ち込まれ、家族の写真や思い出の品々が飾られ本人が安心して過ごせる居室になっています。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいっしん館瀬谷
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	館長 村井慎悟
記入日	平成20年11月3日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	近隣小学校通学路の為、朝の挨拶運動を実施しています。自治会、小学校の行事にも積極的に参加を心掛けています。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	仕事は楽しく明るく、スタッフが先頭に立ち入居者と共に生活に繁栄させていく様、スタッフ間考えが一致している。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	自治会に加入しています。夏まつり等の行事を行う際には近隣の方や入居者様のご家族へも超えかけしています。毎月1回(いっしん便り)を送らせていただき入居者さまの日々の生活等をご家族にお知らせしご理解いただいています。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	幸い近所に建物オーナーの方も住んでおられご紹介も頂く事もあり、「あいさつ」は職員一同基本と考えており、元気に明るくを心掛けて確実にこなっています。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	自治会回覧やオーナーの方より地域のお知らせを頂いたり、小学校の行事などの招待をうけ、交流を深めるよう入居者、職員共々参加するよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	予備室を地域交流スペースとして開放しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己の見直し、また再確認する事でより良いサービスを提供出来るよう努めています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での運営推進会議を1回/月開催し情報交換をしている。地域運営推進会議では、取り組み等の報告、意見交換をし、積極的に意見を取り入れています。		今後、地域運営推進会議の意義、役割に仕組み地域ケアプラザ等に働きかけ取り組んでいく予定でいます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在市区町村との行き来する機会を設けていませんが、特変事態の連絡は随時行っています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実績はないが、社内にスーパーバイザーがあり、如何なる場合でも迅速に対応できるよう体制作りを行っております。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に入居者の身体状況を把握し、小さな変化にきずけるよう職員同志が情報を共有しています。		

項目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は時間をかけ不明な点、不安に思っていること等その場で聞き、十分に理解していただいています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各入居者様に担当を心情を聞いたり、又担当者以外の職員もサポートし、話しやすい環境作りをしています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>《いっしん便り》として日常生活や医療情報を記録したものを毎月送り報告しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアプラン郵送時にご家族様からの意見や要望を記入していただき、日々の生活やケアプランに反映しています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度スタッフミーティングを開き、会社代表同席のもと、現場の状況や意見を発言する機会を設けています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>急な通院や外出に対応できるよう、日中の時間帯には人員を確保し、必要な時には別ユニットより応援を呼び対応しています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>正職員を主として雇用し、離職率を最小限に抑えるようにしています。異動も人員のバランスなどを考慮し、最小限でおさえて入居者様へのダメージのないように努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時において接遇についてのチェックシートがあり、概ね出来た時には確認印を押している。事業所内には、口腔ケア、移乗、排泄介助他の講義内容を録画したCD-ROMがあり、いつでも見ることができるようになっている。外部研修については、グループホーム連絡協議会、瀬谷区ケアマネット他参加する機会を多く設け、勤務の調整をする等して参加しやすい環境を整えるように配慮しています</p>	<p>← 研修名を入れる</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の交換研修に参加したり、ケアマネジャーが瀬谷ケアマネットに参加し近隣地区の事業所との意見や情報の交換・ネットワークづくりを行っており、事業所の質の向上に努めています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>1回/月に代表取締役が来館し、職員1人1人と関わりあって状況の吸い上げをおこなっています。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スキルアップの研修や資格取得に向けて支援を行い、状況に応じて各職員の労働内容に努めています。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に本人と面接を行い細かい点や不安な点などを聞き出し、安心できるようにむけ、対応していきます。また入所まえにホーム見学などをしていただき実際にホームの雰囲気などを見ていただいています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族様にも面接をして不安な点などを聞き解決に努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞き職員間で検討し、協力機関のサービス利用も踏まえ検討しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人様やご家族様にホームなどを見学していただき馴染みの物などの持込などから、安心してホームの雰囲気の意向できるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のコミュニケーションを大切にしながら共に学ぶ意識を持つようにしている。畑での収穫作業、料理や掃除、洗濯などを一緒に行いながら、また裁縫が得意な方はボタン付けや雑巾縫いを行うなど、個々の能力が発揮出来るような環境を整えている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族などと共の敬老や誕生日、行事等の参加に働きかけ、ケアサービスの向上に努めています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と情報交換をしながら良い関係が築ける様に心掛けています。日常生活の様子を“いっしょん便り”にて毎月郵送してお伝えし、同時に施設に来られない方については、電話で情報提供を行っています。きんりんの家族については、面会時に情報提供を行うと共に意見を伺うようにしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限は設けていない。家族や親戚の方、知人等の面会も随時受け入れている。又、家族の所に外泊したり、知人と食事等で外出することもできる。家族への電話も希望するときに電話をかけることが出来る体制になっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事は全員が顔を揃える様にしています。1日のうちで全員が揃って取り組む体操や、歌等も行っていきます。又、その時には個々の人間関係を配慮した上で、座席や役割分担を決め、トラブルにならない様にしています。個別にも話しを聞き、入居者様同士の関係性について情報を得て改善に取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一度関わりを持った入居者様やご家族様と契約が終了した後も付き合いを大切にしている。		退去者のケアプラン作成に協力し、電話相談も受けている。本社共連携して関係を断ち切らない様にしていく。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に利用者に意向を伺い、ケアプランに折り込んでいる。又、各スタッフは意向に沿うようケアに努めています。		今後スタッフの連携をして日々の生活の中で希望意向を聞きだして、実現に向けて行動できるよう支援していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで過ごしてきた生活歴を考慮しつつ共同生活を過ごして頂ける様に努めています。		入居者様のご家族様や知人の方が来館の際には様子を聞き生活に取り入れていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録を中心の日々の生活の変化、身体状況の把握につとめ情報の共有化しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一度のスタッフミーティングにて入居者様の行動、身体状況の変化や対応を全スタッフで話し合い、ケアプランに反映し作成を行っています。		今後、会議以外には日々スタッフ連携をしてアイデアを出し合い介護計画作成を活かしていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネージャーを中心に各スタッフと日々話し合い見直し時期を考えています。		日々の生活の中で書くスタッフは注意を払い必要の際はケアマネージャーを中心に新しい計画を作成していく。

項目		け	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様のケース記録に記入して情報共有を図っている。又他館で起きたアクシデントを検討し、情報共有をしています。		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急ミーティングや申し送りノートによる情報の共有化を図り本社、他館とも連携して時々にあった対応をおこなっています。		ご家族様とも連携して、時々合った対応をしていく。市町村との連携を強め、柔軟に支援していく。
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる交流会、消防訓練、地域小学生との交流会、地域の祭り、蕎麦祭り見学等への参加に積極的に行っています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する支援は行っていないが認定調査時等は地域ケアプラザのケアマネジャーにアドバイスをいただいています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はまだ行っていません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診と週1度の歯科往診を行っています。又必要の際は専門病院への通院を行っている。急変時等は24時間テレケアセンターへ電話し、指示仰いでいます。		ご本人様とご家族様の希望を大切にして必要時は速やかに取り組んでいます。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回の内科往診時に医師と相談をおこなっています。スタッフミーティングの時や日々職員は話し合い、必要な際は医師と相談をおこなっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を雇用し、週に1度来館します、個々の相談に応じながら、支援をおこなっています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者及びご家族様や保護担当者と蜜に連絡を取り合うようにこころ掛けています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方向性の確認を早い段階より行うようにしています。内科往診の医師からも医療面のアドバイスを頂き、早い段階で方針、決断を行える様に努めています。		ご家族や保護担当者と早い段階で話し合い、方針を共有化しています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	内科往診の医療面での意見と職員の意見を元にご本人様、ご家族様の要望を第1に考えて、話し合いにより方向性を明確にしています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去者に現在関わっているスタッフの方から、電話やアドバイスを頂いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケース記録等の記録類は事務所内にて保管しています。リビ ングにてケース記録記入の際には目に出来るだけ触れない ように気を配っています。言葉掛け対応で指摘される場合は その場にて対応に考慮しています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>1日の流れの中でご自分の生活パターンにより行動できるよ う希望に沿うようにおこなっています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限り、本人のペースで生活出来る様コミュニケーション を多くとるようにしています。</p>	<p>共同生活の内で出来る限り、ご本人様の希望に沿った支 援をおこなっています。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着替えや身だしなみは本人の考えを重視している。近隣の 美容室の毎月1回の程の訪問理容を利用している。また、外 出時等は化粧や衣服選びをしておしゃれをたのしんでいます。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>旬の食べ物を献立に取り入れ相談しながら作成しています。 台所に立つ入居者様にはエプロンをつけていただき調理や 盛り付けに参加していただいています。おやつ作りにもお手 伝いしていただいています。</p>	<p>又、誕生日や外食「食事、おやつ」などの機会には御自 分の好きな食べ物をえらんで頂いて注文をしています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>10時、15時おやつ時には好む飲み物を提供しています。晩 酌をされる方がいます。夕食時に提供しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗を減らすため、声かけ、トイレの誘導しています。入居者さまの羞恥心を考慮しながら対応をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴して頂ける環境にあり、本人の希望、体調などに合わせ入浴していただいています。入浴を拒否される入浴者様への声かけの仕方なども工夫をしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない入居者様には会話をしたり、温かい飲み物の提供をして安心できるように心がけています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションを中心に塗り絵、ドリルなどを行ったり、散歩、カラオケ等も行っています。「将棋、トランプ」		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で財布を持っている方もいます。他の方は必要なものがある場合は職員が購入したり、入居者様に同行して購入しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れ、雨の日でも傘をさし、散歩の希望があった場合は希望に沿うように外出しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大きな行事の際は御家族を交えた行事を行い、個別での買い物や一泊旅行へ出かけています。		個別外出は入居者様にあわせて行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの希望があれば必ず提供しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様への対応、出迎えお見送り等又来館していただける様、失礼のないよう笑顔挨拶に力をいれています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動障害がある入居者様に対し、職員が寄り添い常に目の届く仕組みであるが拘束をしないケアに努めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯対策の為夜間の施錠はおこなっているが日中は玄関、ユニット出入りにセンサーを設置し、音で確認するため施錠はしていない。徘徊者には付き添って外出するようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホール内には必ず職員がいる事の徹底。場所を離れる時は全職員が状況を把握できるように、他職員に声かけをしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性のあるものは目のつかない所へ保管し、施錠もできるようになっています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	他館からのアクシデント報告に目を通しヒヤリハットの共有毎月1回のミーティング、ユニットミーティングなど情報収集をし気づきに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを周知しています。消防署の上級救命講習などに参加している職員もいます。		今後全職員が消防署や救急救命指導者の協力を得て応急手当、心肺蘇生術の研修を実施したいです。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成20年の9月の地域防災訓練に職員が参加しました。火災報知器、受信機、通報装置の使用方法的の周知をしたいと思います。		今後も継続し、避難訓練を計画しています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	毎月1回いっしょ便りをご家族様に送り、生活状態や変化を報告し、来館時には説明をし、ご家族様の理解、納得を得ています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に入居者様に気を配り不調時には細かい事も見逃さぬよう記録し、共有できるようにしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カードや往診記録などを活用し薬の理解度を高め副作用や変化があった場合は直ちに主治医に連絡をし指示をあおいでいます。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や乳製品等を取り入れを心かけ、水分補給を促しています。体操や散歩なども行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを毎日行い、習慣化されています。ご自分で出来ない方には職員が援助しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際は職員も入居者様と一緒に食事をして声かけをして摂取していただけるようにつとめています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外部の方の出入りも含め、外出して帰館後は入居者様、全職員手洗い、うがい等徹底しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材を扱う時は手洗いの徹底と食品によってはグローブを使い調理しています。食品の賞味期限に応じた献立を変更して調理しています。食器消毒表に基づき、消毒、殺菌しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に植木鉢を置き、緑のある玄関を作り、掃除などもいきとどく様にきを配っています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔感のある空間を心がけています。ホール内には花や壁には季節感をだすように努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置し、入居者様がくつろげる空間の提供を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で安全で安心して過ごせるように考慮して写真や使いたれた家具などを持ち込み、居心地の良い空間を作り生活していただいています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	病気などの発生予防としても換気などにも気をつけ、ホール、居室内の温度調整にも気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも入れるようにトイレも大きくスペースを確保しています。また、入居者様の安全を考えて、ホール内、トイレ内など、手すりを設置しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に愛称を表示し迷う事の無い様工夫しています。トイレ、浴室等、入居者様にも分かりやすいように見やすい表示をしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム外周でも歩けるよう建物があり、花壇や畑をつくり、季節の花や野菜を楽しんで土作りや草取り収穫、水やりに入居者と共のたづさわっています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いっしんは生活の常識を念頭に、当たり前前を当たり前前に生活が出来るように取り組んでいます。生活の中で『グループホームは入居者様の家』と捉え、職員はその生活の中に入り込ませてもらっている。言わば、職員も家族の一員として喜怒哀楽を毎日共に生活しています。一緒に温泉旅行に行ったり、居酒屋へ呑みに行ったり... それがいっしんの生活の常識です。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム いっしん館
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市瀬谷区本郷3 - 49 - 1
記入者名 (管理者)	村井 慎悟
記入日	平成 20年 10月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定、基本理念、社内決め事十則を掲げています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を念頭におき、理念実行に前向きに取り組んでいます。また、ユニットにてスローガンを掲げています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約時に必ず説明を行い、ユニット内にも掲示をしております。運営推進会議等を利用し、地域への発信を行っています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭り等のイベントを通じ、地域に開けたホーム作りをしています。地域の方々には気軽にお茶を飲みに来て頂けるよう繋がりを大切にしています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催し物に参加したり、周囲の美化活動を積極的に行い、交流を積極的に行っています。また、小学校も近くにあり、利用者自ら毎朝挨拶運動を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	イベント等の声掛けを回覧板等を利用し地域に発信しています。こども110番を引き受け地域との連携をお互いに図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者を含めたミーティングを1回/月行い評価内容について周知、検討しています。		評価に基づいた取り組みを行い、サービス向上に皆で取り組んでいきたいです。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での運営推進会議を1回/月開催し情報交換をしている。地域運営推進会議では、取り組み等の報告、意見交換をし、積極的に意見を取り入れています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在市区町村との行き来する機会を設けていませんが、特変事態の連絡は随時行っています。		行事等の際は市区町村へも声かけをして連携を密に行っていききたいです。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社内にスーパーバイザーがおり、如何なる場合でも迅速に対応できるよう体制作りを行っております。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り帳や個人記録を活用し、小さな出来事も見逃さないようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約の際は、家族に十分納得して頂ける説明を行い、同意を得ています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見を頂いた際は、その都度対応させて頂いている。ご意見箱を設置し、意見回収をしています。また、管理者は入居者様と毎日意思疎通を行い、ご意見等を頂けるようにしています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会があった際は状況報告を行っている。1回/月に写真入りのホーム便りを家族へ送り、近況報告をしています。</p>	<p>職員の入社・退社については即時報告が出来ていないので、その都度書面をもって報告して行きたいと思います。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を事業所以外にも設置し、気軽にお問い合わせ頂けるようにしています。共にご意見箱を活用し反映させています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1回/月に代表取締役を交えたミーティングを行い、職員1人1人の意見を聞けるように取り組みをしています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要時には、勤務者の増員をし、勤務ローテーションを組んでいます。</p>	<p>不測の事態に対応できるように、管理者を始めとして勤務調整して行きます。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>正職員を主として雇用し、離職率を最小限に抑えるようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	早期育成を目的とし基本業務をマニュアル化しています。又、1回/3ヶ月講師を招き社内研修を行っています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での職員交換研修に参加し情報交換等をおこなっています。研修において他事業所の良い点を取り入れて活かせる様にしています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1回/月に代表取締役が来館し、職員1人1人と関わりあって状況の吸い上げをおこなっています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者はもとより職員へ適切なアドバイスをし1人1人の後押しを行っています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者様と1対1で話せる時間を日々の生活を設け、ニーズの拾い上げを行い、可能な限り実行しています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご意見箱を設置し、気軽に投書できるようにしている。初期の段階では状況経過観察を逐一家族に報告し話し合いをし、方向性を見出しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者のニーズに応えられるよう介護計画を作成し、最良の支援が出来るよう話し合い、検討会を開催しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	身体状況、生活歴、性格、趣味等の情報を家族、本人より意見徴収し見出ししている。入居者の馴染み物(使い慣れた家具や生活用品)を使用し、落ち着ける空間づくりをしています。		利用者様が可能であれば、体験入居等も行い入居前に雰囲気を感じていただけるようにしていきたいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、生活空間、時間を常に入居者と共に過ごし、入居者の得意分野を生かし、職員と入居者様が共に生きる共同生活を協力し合い過ごしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	催し事や一泊旅行等には家族とも連絡をとりあい、気軽に参加していただけるようにしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の築いてきた関係を考慮しながら、関係が最善でいられるよう連絡やお便りを送付しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙を出したり、馴染みの場所には個人レクとして外出できる仕組みを作っています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者それぞれの相性を考慮し、職員間に入りかが調整を図っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	組織内で他事業(有料ホーム)と連携し、グループホームで対応が出来ない場合でも入居者様を支えていける様連携を図っています。		契約終了後もバックアップが出来るように体制を整えていきたいです。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の話を受聴し、ニーズを引き出している。入居者の意見や希望を見出し、尊重している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴を本人・御家族より伺い、職員もそれを周知した上での対応を行っています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	月に1度のミーティング、ケース記録、申し送り帳を活用し、必要時には緊急にてミーティングを行っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能な限り本人・御家族の話を伺いより良い生活が出来るよう計画作成している。又、話し合いが不可な場合、書面をもって意見を伺うようにしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月毎の更新を行うようにし、状態が変化した場合は職員、御家族、本人の意向を織り交ぜながら見直しを行っています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間共に生活状況を気づきメモ・ケース記録・申し送り帳へ記入し、全職員がそれを把握しながら支援しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出・外泊支援など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア受け入れや、近隣教育機関等と連携をし、外部からの情報を取り入れています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム入所中は他サービスの利用は不可であるが、必要であれば他サービスの移行が即座に対応できるように連携をとっています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報交換は行っているものの、現在実績なし		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/月、全入居者様往診にて診察を受けています。御家族、御本人の意向はもちろんだが、日々の生活状況をDrに伝え適切な医療を提供しています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	囑託医は内科が主だが、認知症に関して理解は深い。適切な医療提供の為、必要に応じて専門医を紹介していただいています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を雇用し、日頃の健康状態やアドバイスを受けています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者及びご家族様や保護担当者と蜜に連絡を取り合うようにこころ掛けています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては入居時に御家族、御本人の意向を確認しています。その後状況によって医師、御家族と連携をし最善の方法をとっています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	その人らしい生活を送っていただけるよう、囑託医に助言をもらいながらホームにできる事に対し最善を尽くしています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	カンファレンス等を開催しながら話し合い、情報交換を十分に行ながら環境変化による負担を軽減させています。		移り住んだ後も、最大限のフォローができるように仕組みを作っていきたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々にあった対応や言葉掛けを行っています。個人情報については鍵付きロッカーにて保管し厳重に保管しています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個人の話を傾聴し、喜怒哀楽を共にすることで信頼関係を築いています。その中で決定権は入居者本人と努め、本人決定が難しい場合には、促しをしながら決定できるようにしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、入浴等業務的に時間を決めるのではなく、その人のペースに合わせた支援を行っています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>好みの物や希望の物を一緒に購入している。訪問美容室があり、負担なく理美容が可能となっています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者が食べたい物や、旬のものをメニューに取り入れている。簡単な調理や片付け等は入居者様と協力し合い一緒にを行っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品については身体状況加味しながら自由に楽しんでいただいています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ着用は入居者にとってやむを得ない場合のみ使用している。排泄意識がなくてもトイレに座り排泄できるように取り組んでいます。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間は一切決めておらず、夜間等は除いて入居者様の希望通りに入浴して頂いています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	温度管理や寝具を干したりし、清潔に保ち寝やすい環境を整えている。また、ソファやコタツで休息できるように整備しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や掃除・園芸等、個々の役割を持って頂き、張り合いのある生活を過ごして頂いています。季節行事や外出の機会を多く作っています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談しながら、可能な場合は御入居者様本人が管理し、買い物に出かけています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外食・外出や散歩、ドライブ等を行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大きな行事の際は御家族を交えた行事を行い、個別での買い物や一泊旅行へ出かけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時には自由に使用して頂いている。職員が支援しながら手紙を書いて頂く事もあります。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定しておらず、気軽に訪問できるようにアットホームな環境作りを行っています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内全体で身体拘束は禁止としています。全スタッフが理解し取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し外出を察知できるようにしています。日中施錠は一切していないが、夜間は防犯の為玄関のみ施錠しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには必ず職員が在中し、見守りを行っている。職員同士声掛けをし所在確認を確実にしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物に関しては目の届かない場所での保管を行い、それ以外に関しては注意を払いながら環境整備をしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急連絡網や、対策マニュアルがあり、即座に対応できるようにしています。		新職員にも周知できるように、研修会や講習会を開催し勉強していききたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を受講しているスタッフを配置し、定期的に再受講を行っています。		全職員が救命講習を受講できるようにしていきます。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年 消防訓練を行うと共に、緊急時の対応を全職員が周知している。地域の方にもご協力して頂けるよう、日々お付き合いさせていただいております。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	色々なリスク危険性について家族と話し合っている。危険だから駄目でなくどうしたら今まで通りの生活が送れるかを念頭に取組んでいる		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行うと共に、日々の状態に目を配り、ケース記録や申し送り、口頭などで周知しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師は基より薬剤師とも連携を密に図り、職員1人一人が薬についての重要性を肝に銘じています。管理も徹底して行っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	認知症の方にとって便秘と行動は密接であることを全職員が理解し、及ぼす事態も熟知している。薬に頼らず食事療法から便秘解消を図っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1人ひとりの状態に合わせ、介助支援を行っています。歯科衛生士も職員におります。1回/週の歯科往診があり、都度診察、チェックを受診しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立作りをすると共に、栄養士の指導も受けています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを活用し予防しています。手洗い、うがいを徹底して行い、外部からの感染を防いでいる		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒を施行しています。新鮮な物を提供する為、買い置きはせず3回/週買い物し消費期限等徹底して行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に季節の草花や家庭菜園を行い、家族の方以外でも訪問しやすい環境作りを行っています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	草花をホール内に置いたり、日々の写真等を掲示しアットホームな空間作りをしています。又、自然な光を感じられるよう夏はすだれ等を用い風情を感じながら過ごせるようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやコタツを設置し、自由に利用できるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇等を自由に持ち込んで頂き、馴染の家具で今まで通りの生活に近づけられるように支援しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	必ず換気を毎日行っています。温度は職員に合わせず、入居者の温度に合わせて心地良い温度になるように配慮しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、全体に手すりを設置している。居室の占有面積も広く、トイレや浴室も車椅子対応となっています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札をつけ、浴室やトイレには一目で分かるように表示を出してあります。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園や草花を入居者が育てられるようにしていると共に、近隣の畑から収穫等も行わせてもらっています。		



. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いっしんは生活の常識を念頭に、当たり前な事を当たり前のように取り組んでいます。生活の中で『グループホームは入居者様の家』と捉え、職員はその生活の中に入り込ませてもらっている。言わば、職員も家族の一員として喜怒哀楽を毎日共に生活しています。一緒に温泉旅行に行ったり、居酒屋へ呑みに行ったり... それがいっしんの生活の常識です。